

2011年6月19日

1色アタログ原稿の再現の良い描き方について

ペン入れ編

どれだけキレTに製版できるかがポイントです!!

原稿は、印刷にかかる前に必ず印刷の元となる「版」が作られます。印刷は、版以上に美しく仕上げる事が出来ないため、美しい印刷はまず版の段階で原稿がどれだけ再現できるかが重要です。

これから、版に再現しやすいアタログ(紙原稿)のポイントを紹介していきます。

製版機の読み取りポイント

版を作る機械が製版機ですが、製版機は白と黒しか判別しません。灰色の部分やカラーなどは、とんだり、つぶれたりしてしまいます。

とびやすさ、つぶれやすさを図解すると...

出やすい

出にくい

ペン入れ

色が黒

白、灰色

線が太

糸田 (細くてきっかり黒ければ出ます)

ライン

荒い

糸田かい



とびやすい



つぶれやすい

ライン

色が薄い

濃い

5%以下

70%以上



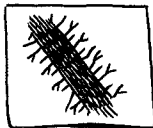
具体的なポン入れについて



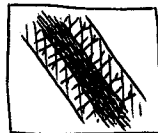
■ 主線がキレトに再現できるかどうかは、製版に適したポン入れか
できているかどうかにかかっています。

折角頑張ってポン入れをした主線、キレトに出すために
以下のポイントを押さえておきましょう。

1. ケシゴムをかけて色が薄くなってしまふ画材は使わない
(主につけポンよりミリポン等使用の方に多いです)
2. 勢いをつけて描く線は、特に濃度に注意して下さい。(ぼんぼん線など)
色が薄く、灰色になっていると、線がとんでしまいます。
線がしっかり黒になっているか確認しましょう。
3. テンカがにじんでいると、にじんだ部分も読み取り、線が
ために再現されてしまう可能性があります。



原稿の線(拡大)



再現

■ 線とトーンの、光の調整と再現



製版をする際、薄い部分・濃い部分を出すために、
光の強さを調整します。(これを露光調整といいます)



薄い部分を出す際は光を弱く、濃い部分を出すためには
光を強くします。



IPに薄い部分と濃い部分が併用されていると、片方に合わせて調整
することができず、間の光量で調節します。



IP単位で「線が薄い/トーンが薄い」や「線が濃い/トーンが濃い」
の2つと分けられると、再現が良くなります。

スクリーンを多用される方は、黒々しているとばねい線でのポン入れが
出来れば、光の調整をトーンに
集中できますね。

有限会社
ねこのしっぽ

〒211-0001 神奈川県川崎市中原区上丸子八幡町816

TEL 044-430-3767

<http://shippo.co.jp/neko/>